

「マイ避難計画」試した

水害想定 常総で演習

刻々住民、行動を説明

2年前の「関東・東北豪雨」で鬼怒川が決壊し、大きな被害を出した常総市で28日、行政と市民による避難演習があった。市民らは自分がどのように避難するかを時系列順にまとめた「マイ・タイムライン」を持参。これまで住民には見えづらかった行政の動きを目の当たりにしながら、自分の行動計画に問題ないかを確認していった。



会場の石下体育館に市民と国土交通省下館河川事務所、県、市の担当者ら約50人が集まった。市民の多くが、堤防が決壊した箇所の下流にある根新田地区と、自然堤防から溢水が起きた若宮戸地区の住民ら。両地区は昨年「マイ・タイムライン」作りに取り組んでおり、各自が持参した。

「避難指示」が出た段階で演習は終了。若宮戸地区から参加した設備設計事務所経営の土河隆さん(66)は「2年前は行政から情報が届かなくて困ったが、今回一緒に演習して行政側の動きがよく分かった。住民はもっと行政と相談すべきだと思った」と話した。

りと「マイ・タイムライン」に記載した作業を発表した。「避難準備・高齢者等避難開始」が発令されると、市民からは「避難すべきか近所の人と相談して、そわそわしている状態だと思っ」などの声が出た。結局、11人が避難所に設定された正面舞台に移動した。

「避難勧告」が出るとさらに5人が避難し、根新田町内会の鈴木孝八郎区長だけが残った。鈴木区長は「根新田では町内会が携帯メールで浸水状況などを住民らに刻々と伝えることにしている。そのため私は自宅2階に避難して発信し続けます」と説明した。

水戸地方気象台から注意報や警報が発表されると、神達岳志市長らが県や河川事務所と連絡をとりながら、避難準備に向けて演習を進めた。市民らも、家族の所在を調べたり、家財道具を2階に上げた

国や市の動きに合わせて自分の避難行動を説明する市民(後方壇上は避難した市民) 常総市の石下体育館

た。

「避難指示」が出た段階で演習は終了。若宮戸地区から参加した設備設計事務所経営の土河隆さん(66)は「2年前は行政から情報が届かなくて困ったが、今回一緒に演習して行政側の動きがよく分かった。住民はもっと行政と相談すべきだと思った」と話した。